

羅臼地域マリンビジョン計画書

平成 17 年 3 月

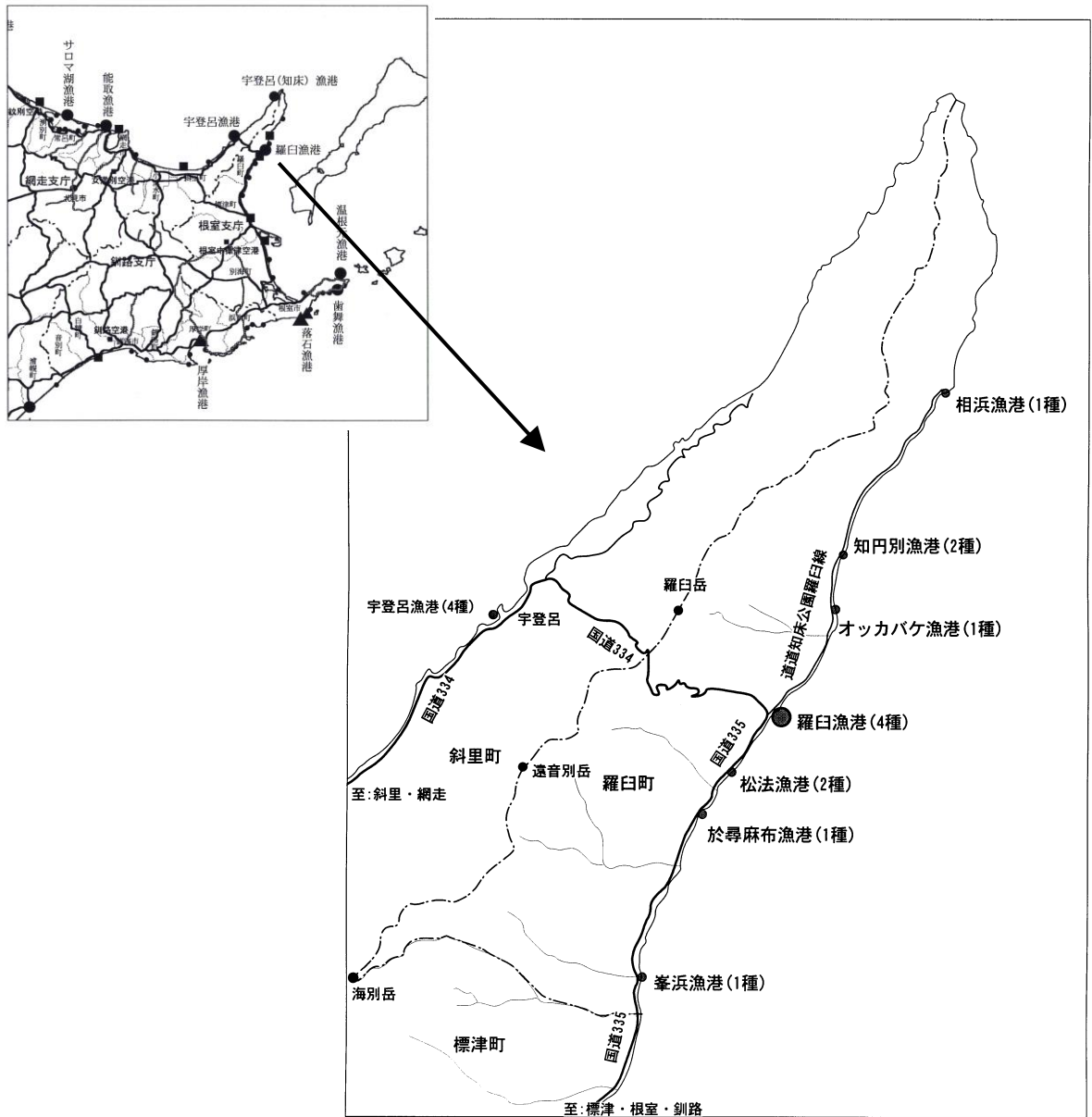
羅 臼 町

羅臼地域マリンビジョン計画書

1. 地域の概要

地 域 名	羅臼地域	漁 港 名	羅臼漁港（拠点漁港）、松法漁港、知円別漁港、 峯浜漁港、於尋麻布漁港、オッカバケ漁港、 相泊漁港
地域の概況	<p>羅臼町は北海道の東北端、知床半島の東側に位置し、半島先端部から羅臼岳にかけては知床国立公園区域に指定されている自然豊かな地域である。町域の約95%が森林で占められており、平坦地は海岸線を除きわずかに各河川流域にあるだけである。東樺太海流の南下とともに沿岸部で結氷が見られ、1月中旬から4月上旬まで周辺海域は流水で覆われる。</p> <p>広域交通は、標津町方面に伸びる国道335号と知床半島を横断して斜里町ウトロに至る国道334号があるが、国道334号は冬期には積雪のため閉鎖される。</p> <p>羅臼町の人口は6,956人(H12国勢調査)で、昭和40年の8,931人をピークに緩やかな減少傾向にある。平成12年の産業別就業人口比率(国勢調査)は、第1次産業43.2%、第2次産業19.5%、第3次産業37.3%である。このうち、漁業・養殖業が42.2%を占め、製造業も水産加工を主とする食品製造業が主体であり、水産業に依存した産業構造となっている。</p> <p>羅臼町の漁業はスケトウダラ刺網、サケ・イカ定置網、採藻漁業が主体であり、これら沿岸漁業が漁獲全体の大部分を占めている。しかし、主力のスケトウダラ漁は資源枯渇を原因として低迷しており、イカ漁は水揚げが増加し上昇基調に入っているが、大幅な増産が期待できる状況にはない。しかしながら、根室海峡海域は太平洋とオホーツク海の交錯する、世界でも屈指の水産資源の豊富な海域であり、多種類の魚種が漁獲されている。こうしたことから、最盛期に比べ落ち込みはあるものの漁獲量5~6万ト、生産額約120億円前後を維持する全国でも有数な水産物供給基地となっている。</p> <p>水産業関連以外では、酪農や知床観光の基地としての観光関連産業等があるが、いずれも産業規模は小さい。交通遠隔地にあり、平坦地に乏しい地形条件から、企業立地が難しい状況にあるが、近年は海洋深層水の利活用による新たな産業の創出や既存製品の付加価値化が図られている。</p> <p>町域は平坦地が少なく、山裾が海岸線まで迫っているため、町内の各集落は主に海岸沿いに立地しており、国道や道道に沿った列状集居の形態となっている。そのなかで、羅臼漁港背後の羅臼川に沿って中心市街地が形成されており、町役場、病院、消防署等の公共公益施設や商店、飲食店、宿泊施設等が集中して立地している。</p>		

位置図



写真等



羅臼漁港と
背後の中心市街地

2. 地域の課題と目指す姿

地域の課題

(1) 水産業振興の課題

- 天然資源に多くを依存する漁業形態のなかで漁獲量は減少傾向にあるため、科学的調査に基づいた資源管理漁業を実践するとともに、藻場造成・磯焼け防止対策・新たな放流対象種の開発等に取り組み、北方海域の特性に応じたつくり育てる漁業を推進する必要がある。
- 大幅な漁獲量の増加は見込み難い状況のなかで、漁家経営の安定を図り、地域経済への波及を高めるためには、地場加工やブランド化による付加価値化、観光活用による地場消費の拡大等を図る必要がある、そのためには水産物の衛生管理の高度化、蓄養による出荷調整、特産品の開発等が課題である。
- 漁業就業者の減少・高齢化が進むことが予想されるため、安定した漁業生産を持続し、地域の活力を維持していくためには、漁業の担い手となる後継者の育成が重要な課題であり、漁業所得の向上、兼業機会の創出、融資・研修制度の充実等を図る必要がある。また、高齢者や女性の就労も考慮し、安全で働きやすい就労環境を整備することも必要である。

(2) 地域活性化の課題

- 定住人口を維持するためには、基幹産業である漁業生産を維持するとともに、地域経済への波及を高める必要がある、観光関連産業や食品加工業等と連携して漁業や漁獲物を積極的に活用することが重要である。ただし、観光の振興にあたっては、貴重な財産である知床の自然環境の保全とバランスのとれた形で進める必要がある。また、海洋深層水等の地域資源を生かした新たな地場産業の創出に向けた取り組みが望まれる。
- 安定的な漁業の継続や観光の振興を図るためには、知床の自然を保全し、自然環境と調和したまちづくりを進めることが重要であり、生活排水の処理を徹底するとともに、住民の合意のもと自然景観と調和した町並みを創造していく取り組みが求められる。また、高齢者の増加や身体障害者の社会参画に対応できるバリアフリーのまちづくりも進める必要がある。
- 交通遠隔地に立地する地域であるため、地震や火山噴火等の大規模災害に備えて、陸上交通が途絶えた場合の緊急避難や物資輸送の手段を確保するとともに、災害直後の地域の孤立に備えた生活物資や医薬品等の備蓄を行う必要がある。

(3) 漁港整備・利用の課題

- 町内には拠点漁港である羅臼漁港(第4種)をはじめとして、第2種漁港が2港、第1種漁港が4港あり、適切な機能分担のもとに漁港の整備・利用が行われている。そのなかで、羅臼漁港は流通拠点、観光振興拠点、防災拠点等の多様な拠点機能の充実が求められているうえ、外来漁船を含む利用漁船が多いため、現状施設では狭隘であり、係船岸や漁港施設用地の拡充が必要である。
- 流通拠点としては、清浄海水取水施設や全天候型埠頭の整備等が進められているが、さらに港内水の浄化対策や地域 HACCP の構築と連携した関連施設の整備が必要である。
- また、観光遊覧船施設や海釣り施設等の整備による観光振興拠点としての活用や冷凍冷蔵施設用地・共同加工施設用地の整備等による水産加工業支援機能の強化も必要である。

目指す姿

(1) 将来像

1) 全体像

～ 知床の自然と共生し、すべての人が協働する「さかなの城下町」 ～

◆ 根室海峡の豊かな水産資源を守り、安全な水産物を全国に供給する

基礎生産力の高い漁場の保全と適切な資源量調査に基づく資源管理やつくり育てる漁業の推進等により、将来的にも現状水準の生産量を維持している。また、鮮度保持や衛生管理の徹底による安心・安全な水産物の供給体制が確立しており、羅臼ブランドの評価は全国的にさらに高まっており、羅臼町の水産業は安全な水産物の安定供給と地域の経済基盤としての役割を果たしている。

◆ 知床の自然、高品質の水産物、海洋深層水等を活用した特色ある産業を育成する

漁業生産の増加が見込めないなかで、地場加工の拡大、蓄養による出荷調整、直販・インターネット販売などの取り組みが進み、限られた資源の付加価値化・有効利用が図られている。また、新たな地域資源として利活用が始まった海洋深層水は、水産物の鮮度保持や漁港の衛生管理の向上に利用されるほか、食品製造、医薬品、農業分野などの多方面での利活用が進み、新たな産業が形成されている。さらに、知床の自然がこれまで以上に世界的な注目を集めるなかで、環境保全と調和したエコ・ツーリズムが確立しており、体験学習型の羅臼独自の観光産業が成立している。

◆ 町民とあらゆる関係者が協力して、知床の自然と調和したまちづくりを進める

知床の自然は、地域ばかりでなく世界的な財産であり、その利用と保全は地域が責任を負っている。そのため、エコ・ツーリズムを基本とした観光客の受け入れや漁業における資源管理・漁場保全が行われているほか、生活排水処理やリサイクルを含む廃棄物処理も適切に行われ、さらに、景観と調和したまちづくりが進められている。

2) 人口と産業

羅臼町の将来推計人口は、平成 22 年に 6 千人を割り込む水準となり、平成 27 年には 5,241 人となる。特に、年少人口(15 歳未満)の減少が大きく、全国的な傾向と同様の少子高齢化が顕著となる。漁業が地区の基幹産業であることに変わりはないが、人口の減少に伴い、担い手の確保・育成や漁業作業の効率化・省力化が重要な課題となっている。こうしたなかで、水産加工業、海洋深層水を利用した製造業、観光関連産業に従事する就業者が増加している。しかし、大規模な加工基地の形成や観光開発は目指していないため、基本的な産業構造は大きくは変化していない。

3) 海的环境と利用

環境保全の意識はさらに高まり、自然保護、ゴミ投棄の防止、生活排水の処理等が進み、海的环境は良好に保たれている。沿岸部では、磯焼け防止対策や種苗の適正放流が継続して実施されるなど、漁場の整備や管理が適切に行われ、漁業面での利用はさらに高度化している。その中で、

海の自然観察・体験漁業等での海域利用も増加している。そのため、漁業以外での海域利用者の組織化や受け入れ体制の整備が行われ、漁協・行政と海域利用のルールを取り決めている。

4) 漁業生産

海域環境の保全や漁場整備・種苗放流の効果が上がるとともに、資源管理が徹底され、資源動向や消費動向に見合った漁獲が行われているため、生産量は安定的に推移しているが、イカの資源変動が激しいため、全体としては現状水準をやや下回る年間 4.5 万ト前後で推移している。また、食生活の多様化等により魚価の大幅な上昇は見込めないが、加工による付加価値化、衛生管理・鮮度保持の向上と羅臼ブランドの全国的な PR、観光客誘致による地場消費の拡大等によって、魚価の安定・向上が図られており、生産金額は現状水準の 120 億円前後で安定的に推移している。

5) 流通加工

多獲性魚類については、冷凍冷蔵施設の整備等によって出荷調整が可能となり、市場動向や需要に合わせた計画的な出荷が行われている。ブナサケ、スケトウタラ等の食品素材開発が進み地場加工が拡大しているが、地場加工は「羅臼の味づくり」に重点が置かれ、各加工場が創意工夫をこらした製品も開発されている。これらは大量生産されず、羅臼ならではの味となっており、素材に合わせた季節限定販売となっている。また、生鮮魚介類とともに、羅臼を訪れる観光客に提供され、観光面での「体験加工」の目玉としても活用されている。

6) 漁業経営と漁業の担い手

これまでの漁業経営体数の減少は、刺網漁業の減船の影響が大きかったが、安定的・効率的な生産が可能になったため、これまでのような大きな減少はなく、平成 15 年から 1 割程度減少の 370 経営体前後となっている。

資源動向の把握やグループ操業などによって効率的な操業を行い、経費の削減も図られている結果、1 経営体平均の漁業所得は、3 トン未満階層で 700 万円弱、3～5 t 階層で 1000 万円、5～10 t 階層で 1200 万円、10 t 以上階層で 1400 万円程度となっている。

3 トン以上階層は中核専門漁家で、漁業収入が漁家所得のほとんどであるが、3 トン未満階層は兼業漁家が多く、兼業収入で生計を補っている。兼業収入は、本人や配偶者、同居後継者などの漁業乗組員給与や陸上作業賃金が主なものだが、操業や陸上作業の効率化が進んでいるため、漁業関係の収入は減り、代わって水産加工や自然体験インストラクターの収入が増加している。

漁業就業者数は、後継者対策による若年層の着業を維持・促進するとともに、漁家所得の向上・安定により青壮年漁業者の定着が図られていることから、平成 15 年から 2 割程度の減少にとどまり 750～800 人程度となっている。

7) 生活環境

町の推進する「知床パークタウン 21 構想」の各種事業が進行し、公園、スポーツ施設、福祉施設、自然体験活動施設等が整備されており、ゆとりと潤いのある生活が実現している。また、個別浄化槽の設置率が高まり、トイレの水洗化が進むとともに、生活排水の処理がほぼ完全に

われている。

橋梁部の防風対策、地熱利用等による道路の融雪対策等が行われ、歩行者に歩きやすい道路体系が整備されている。これらの道路は災害時の緊急車両の通行路や避難路でもあり、適所に非常灯や防火水槽が配置され、防災安全性も高まっている。また、階段や歩道の段差のスロープ化、点字ブロックの設置、コミュニティーサインの統一などにより、バリアフリーのまちづくりが行われている。

北海道南西沖地震や阪神淡路大震災等の教訓から、防災面での対策が進められ、安全性の高いまちとなっている。特に、大規模地震等の災害時に道路が寸断されると孤立化する条件にあることから、非常用物資の備蓄や非常時の輸送手段の確保が必要であり、海上輸送の拠点、緊急物資の集積・分配場所、ヘリポート等として羅臼漁港が利用できるようになっている。

知床の自然の価値やその保全の重要性に対する認識がさらに高まり、住民合意のもとに、建築物の高さ制限や素材・色調の統一、野外広告の規制、電線の地中埋設化、市街地の緑化など、景観と調和したまちづくりが進められている。

8) 漁港漁場

羅臼町の沿岸部は、漁場整備や磯焼け防止対策等によって、減少した藻場の回復もみられ、定置網のほかウニ・コンブ等の優良漁場として高密度に利用されているほか、水産資源の産卵・幼稚仔育成の場として機能している。

町内にある7漁港は、その特性・機能に応じた整備・利用が行われているが、施設整備における藻場機能の付加や景観と調和した素材の採用、漁港内で発生する排水・廃棄物の適切な処理など、環境保全への配慮が十分に行われている。

中核拠点漁港である羅臼漁港においては、人工地盤による用地整備や漁港の拡張により、係船岸・泊地・用地の充足率が高まるとともに、低温清浄海水の利用や屋根付岸壁・排水処理施設の整備等により、衛生管理の向上が図られている。また、道路や作業場の防風防雪対策、陸上蓄養施設・共同加工施設、冷凍冷蔵施設等の整備が進み、流通拠点・避難港としての機能が強化され、利便性・安全性も高まっている。さらに、展望公園、市場見学コース、釣り施設、観光遊覧船発着所、海レク関連施設（研修室・更衣室等）も整備され、衛生管理エリアとの調整を図りながら、都市漁村交流の拠点ともなっている。

■将来推計（目標値）

区 分	漁業 生産量 (ト)	漁業 生産金額 (百万円)	漁業 経営体数 (経営体)	漁業 就業者数 (人)	漁業所得（万円）		町人口 (人)
					3ト未満	3ト以上	
A. 現状	58,949 (48,508)	12,176 (11,939)	410	919	604	1,027	6,956
B. 将来	45,555	11,940	373	772	674	1,263	5,241
B/A	0.77 (0.94)	0.98 (1.00)	0.91	0.84	1.12	1.23	0.75

注-1) 「A.現状」の生産量・金額はH12～H14平均値。ただし、()内はH14の値。経営体数、就業者数はH15漁業センサスによる。漁業収入は1経営体平均の推定値。町人口はH12国勢調査による。

注-2) 「B.将来」は、概ね10年後の推計(目標値)である。

注3) 3ト以上階層の「漁業所得」は、3-5ト、5-10ト、10ト以上の各階層の平均漁業所得の加重平均値である。

(2) 構想

1) 水産業振興構想

安定的な漁業生産を維持するために資源管理やつくり育てる漁業を推進するとともに、品質・安全性のより高い水産物を供給するために衛生管理の徹底や鮮度保持の向上を図る。

これらにより、「羅臼ブランド」の評価をより高めるとともに、水産加工業の振興や漁業と観光関連産業との連携強化等により、漁獲物の有効利用、価格の安定・向上と雇用機会の拡大を図る。減少が想定される担い手を確保するために、研修・教育の充実による後継者の育成や女性・高齢者も働きやすい就労環境の整備を図る。また、効率的で有効な施策を展開するために、漁協と行政・水産関連機関等の連携により調査・試験研究を推進する。

○資源管理・つくり育てる漁業の推進

- ・海洋環境調査、資源調査を強化し、資源動向予測等に基づく漁獲管理を検討する。
- ・築いそや漁場改良を継続し、コンブ・ウニ等の浅海漁場の整備を進める。
- ・ナマコ等の種苗生産技術を確立するとともに、養殖技術を開発する。

○衛生管理の高度化

- ・漁港内においては、衛生管理エリアを設定し、屋根付岸壁の整備、低温清浄海水の利用、清潔な容器の使用、排水処理施設の整備等により、衛生管理の向上を図る。
- ・衛生管理向上対策は、漁港内ばかりでなく、水産物流通業、水産加工業等を含む、地域ぐるみの取り組みとして実施し、地域HACCPの構築を目指す。

○水産加工業の振興と流通対策

- ・スケトウタラやブナサケ等の多獲性魚の食材加工、2次加工を行う。
- ・羅臼で漁獲される魚介類を活用して、「羅臼の味」として珍重される加工製品を開発する。

○流通対策

- ・大型冷凍冷蔵庫を整備し、市場動向に合わせた出荷や加工原魚の安定供給を可能とする。
- ・漁期外での安定出荷や流氷期、荒天時等の品薄状態での出荷に対応できるように、ウニ、カレイ類等の陸上蓄養施設を整備する。蓄養には海洋深層水を利用し、品質、鮮度の向上を図る。
- ・「さかなの城下町」としての羅臼のイメージアップを進めるとともに、「羅臼ブランド」を明確にした出荷を行う。

○漁業と観光の連携

- ・知床の自然と羅臼の新鮮な魚介類を合わせてPRし、加工品を含めて羅臼でしか味わえない料理を宿泊施設・料理店等で提供する。
- ・羅臼の水産物を利用した加工品づくりや魚の料理教室、料理コンテスト等を体験型観光の一環やイベントに組み入れる。
- ・遊漁案内をはじめ、磯の生物観察、ホエールウォッチング等の海に関する体験学習型観光メニューを整備し、自然観察や環境保全、海難救助等の知識を習得した漁業者がそのガイド、インストラクターとしての役割を果たす。
- ・行政、漁協、関連機関・組織等の協力のもとに「海の情報センター」を設け、海況情報の提供や体験メニューの紹介等を行うとともに、海の利用に関するルールを取り決め、周知する。

○漁業経営の改善と担い手確保対策

- ・漁業収支を家計と分離してコストや生産性を分析し、計画的な生産と投資を行う。
- ・資源管理や経営管理を実戦するなかで、漁業種類によっては漁船・漁具の共有化や操業の共同化を進め、投資の効率化、経営の安定化を図る。
- ・高校生を対象に行っている水産実習を小中学生にも拡充するとともに、大学卒業者やUターン就業者の受け入れも促進する。
- ・漁撈技術や増養殖技術の研修に加えて、企業的漁家経営や生活設計等に関する研修も行うこととし、他漁協との共同研修や交流を行う。
- ・高齢者の操業を共同化し、浅海部の磯根漁場を共同利用区域として操業するなど、働きやすい環境を整備する。

○漁港の機能分担と施設整備

- ・町内にある7漁港のうち、羅臼漁港を拠点漁港として、水産物流通加工機能、資源管理機能、防災・避難機能、都市との交流支援機能の強化を図る。
- ・知床別漁港、松法漁港において、安全性の向上、労働生産性の向上等を図るための整備を行う。

2) 地域活性化構想

漁業・水産加工業・観光関連産業等の産業振興を図り、安定的な雇用機会と収入を確保するとともに、生活環境基盤整備や防災対策を進め、安全で潤いのある定住環境を整備する。

また、豊かな知床の自然を保全し、これを活用した自然観察・体験の場を整備し、地域住民ばかりでなく、都市住民にも開かれた交流・ふれあいの場とする。

○自然環境の保全

- ・観光客、釣り客等への自然破壊防止、ゴミの持ち帰り等のPRを行う。
- ・マスメディア等を通しての、知床の自然、希少生物や環境保護の紹介を行う。
- ・ボランティアによる清掃活動を定期的実施する。
- ・個別合併浄化槽の設置を促進するとともに、住宅の密集部等では小規模集合処理施設の整備を検討し、生活排水の全量処理を目指す。
- ・資源のリサイクル活用や包装の簡易化等により、ゴミの減量化を図る。

○地域資源を活用した産業の振興

- ・低温清浄海水（海洋深層水）は、水産利用のほか食品加工、畜産等の農業分野、健康産業分野等でも大きな利用価値があるため、既存企業へ深層水の提供、深層水を活用する新規立地企業の誘致等により、新たな地域資源を活用した産業の振興を図る。
- ・羅臼町の観光は、知床の自然とのふれあいを基本に、自然の中での生物観察、釣り、散策、登山、キャンプ等とするため、体験学習の場、散策路、休憩所、キャンプ場等を整備する。また、宿泊施設は、既存施設のほか民宿型・ペンション型やコテージ型を中心とし、羅臼ならではの料理や食材を提供する。
- ・観光の振興にあたっては、専門職としての観光ガイド・インストラクターを育成する。

○交流・ふれあいの場の整備

- ・羅臼町のまちづくりの中心施策として、「羅臼らしさ」にこだわりながら全町公園化を目指し、町民の生活環境・福祉の向上とともに、都市住民を含めた交流の場・憩いの場を整備することを目的とした同構想を具体化し、各種事業を推進する。
- ・観光関連施設と連携した形で、砕氷型流水観光船等の発着施設を整備する。

○環境と調和したまちづくりと防災対策の推進

- ・住民合意のもとに、景観条例の制定や景観区域の設定等を検討し、建築物の高さ制限や素材・色調の統一、野外広告の規制、電線の地中埋設化、市街地の緑化などを進める。
- ・橋梁部の風よけや道路の消融雪施設整備等の防風防雪対策を行うとともに、歩道の段差や階段のスロープ化、点字ブロックの設置等により、歩きやすい道路を整備する。また、公衆便所を含む公共施設や観光関連施設等のトイレを車椅子で利用できるものとするなど、バリアフリーのまちづくりを進める。

○ 防災対策の推進

- ・市街地内や避難場所への避難路を複数化し、縦横の連絡を図る。
- ・防火水槽の適正配置や河川水・海水利用ポンプの設置等による消防水利の増強を図る。
- ・災害時の停電に備えた非常電源付き街灯（避難誘導灯）を整備する。
- ・非常時物資（食料、飲料水、医薬品、暖房器具等）の適切な備蓄を行う。
- ・町内の各集落は沿岸部の国道および道道のみで結ばれており、災害時には孤立化しやすい状況にあるため、道路交通の遮断時には海上輸送を物資輸送ルートとする。物資の海上輸送には漁港を利用するものとし、町の中心地区にある羅臼漁港を防災拠点漁港として整備する。

3) 羅臼漁港将来構想

羅臼漁港では、外郭施設、係留施設、漁港施設用地等の整備が進められ、流通拠点漁港・避難港としての機能と衛生管理対策の向上への対応が図られているが、将来的には

見て欲しい！ 羅臼の漁業と羅臼のさかな

を基本テーマとし、消費者が信頼・安心できる生産基盤、子どもたちが漁業に誇りと魅力を感じることで就労の場とするとともに、知床らうすの自然を体感する交流拠点の形成を目指す。

○漁港施設の拡充整備

- ・小型漁船の係留施設を拡充整備して係船岸の充足率を高め、港内の混雑を緩和する。
- ・冷凍冷蔵施設用地、加工場用地等を整備し、流通加工機能の強化を支援する。
- ・市場施設周辺の臨港道路や漁港入り口の傾斜道路部において、地熱や温水利用等による除雪対策を行い、冬期にも利用し易い漁港とする。

○環境・衛生管理高度化対策

- ・陸揚岸壁や荷捌所(魚市場)を衛生管理エリアとして一般者の入場を制限するとともに、漁港内の一般者の利用エリアや歩行ルートを設定し、衛生管理に配慮した利用区分の明確化を図る。

- ・陸揚岸壁のうちエプロンで荷捌作業を行う部分は屋根付きとし、衛生環境の改善と就労環境の向上を図る。
- ・海水交換促進施設の整備により、港内水の浄化を図る。
- ・漁港内の既設トイレを水洗化するとともに、利用者に対応したトイレを整備する。

○流通加工整機能施設の整備

- ・ウニ、カレイ等の陸上蓄養施設を整備する。蓄養においては海洋深層水を活用し、品質・鮮度の向上を図る。
- ・サケ、スケトウタラ等の出荷調整や加工原魚の保管のための冷凍冷蔵庫を整備する。
- ・漁家を含む小規模水産加工の作業環境の改善と衛生環境の向上を図るため、共同加工施設を整備する。

○交流・ふれあい機能施設の整備

- ・水産加工等体験施設、展望施設等の観光関連施設のほか、知床の海の自然学習・研修、観光案内、海の情報提供等を行う総合的な交流施設を整備する。
- ・観光交流関連施設と連携して、砕氷型流水観光船等の発着所を整備し、知床の交流拠点とする。
- ・漁業作業や市場活動の障害とならないように配慮した歩道や回廊を整備して、漁業関係者以外にも開かれた漁港とするとともに、観光客や一般の漁港来訪者を適切に誘導する。また、「オジロ橋」周辺に誘導標識や駐車場等を整備し、漁港関係車両と一般車両の輻輳を避ける配慮を行う。
- ・沖防波堤を利用した海釣り施設を整備する。

3. 構想実現に向けての取り組み

取組の内容		今後、概ね 10 年間を計画期間とする取り組み内容は以下のとおり。			
項目	取り組み内容	実施時期	実施主体	備考	
1 水産業振興構想	1.1 資源管理・ つくり育てる 漁業の推進	(1) 海洋環境調査・資源調査 ・スケトウダラ、ウニ等の資源調査	継続実施	羅臼漁協 羅臼町 道立水産試験場 他関係機関	
		・海洋観測の自動化、資源調査等の 広域ネットワーク化	未定		
		(2) 漁場整備 ・雑海藻駆除等の漁場保全	継続実施	羅臼漁協	
	1.2 衛生管理の 高度化	(3) 種苗生産・養殖・放流技術の確立 ・ナマコの種苗生産と養殖試験	継続実施	羅臼漁協	
		(1) 羅臼町水産物衛生管理高度化推 進協議会(仮称)の設置	H18	羅臼町 羅臼漁協 関連団体	
		(2) 衛生管理マニュアルの作成 と実践 ・衛生管理マニュアルの作成 ・低温清浄海水の利用による鮮度保 持、床洗浄等の実施 ・衛生管理マニュアルに基づく作業 形態の改善、清潔保持の徹底	H17 H18～ H18～		
	(3) 地域 HACCP の構築 ・荷捌所(魚市場)の衛生管理対応 ・水産加工場の HACCP 認証取得 ・地域 HACCP の実施	未定			
	1.3 水産加工業 の振興と流通 対策	(1) 地場加工の拡大 ・製品開発	継続実施	各水産加工場 漁協青年部 漁協女性部	
		・共同加工場整備	未定		
		(2) 陸上蓄養施設の整備と利用 ・陸上蓄養施設の整備(1,154 m ²) ・第1段階;エゾバフンウニ ・第2段階;ホタテ、ツブ類他 ・第3段階;カレイ類、タコ他 ※海洋深層水を活用	H18 H19～ 未定 未定	羅臼漁協	
		(3) 大型冷蔵庫の整備	未定		
	1.4 漁業と観光 の連携	(1) 海の利用のルールづくり	H17～	羅臼町 羅臼漁協 羅臼ビジター センター 関係団体	
(2) 海の情報センターの整備		未定	羅臼町		
1.5 漁業後継者 の育成と高齢 者対策	(1) 漁家経営の指導 (2) 漁業者研修	継続実施	羅臼漁協		
	(3) 「高校生の水産教室」の拡充	継続実施	羅臼町教育委 員会		
1.6 漁港の整備 (羅臼漁港 を除く)	(1) 知円別漁港の整備 ・防波堤の新設、改良 ・係船岸の新設、船揚場の改良 ・臨港道路の補修	H13～	北海道		

	1.6 漁港の整備 (続き)	(2)松法漁港の整備 ・係船岸の改良	H13～	北海道	
2 地域 活性化 構想	2.1 自然環境の 保全	(1)観光客等への環境保全の啓発	継続実施	羅臼町 羅臼ビジター センター 羅臼町観光協 会他	
		(2)合併浄化槽の設置促進	継続実施	羅臼町	
		(3)町内の清掃・緑化	継続実施	町民	
	2.2 地域資源を 活用した産業 の振興	(1)海洋深層水の利活用 ・海洋深層水分水、利用計画の策定 ・利用企業調査 ・新規立地企業の募集、選定	H16～17 H17～18 H17～	羅臼町 羅臼町商工会	
		(2)観光ガイド・インストラクターの 育成 ・研修の実施 ・町独自の認定制度の検討	未定	羅臼町 羅臼ビジター センター	
	2.3 交流・ ふれあいの 場の整備	(1)キャンプ場、公園等の整備	継続実施	羅臼町	
		(2)観光船発着施設の整備	未定		
	5.4 環境と調和 したまちづ くりと防災 対策の推進	(1)景観に配慮したまちづくり ・羅臼らしいまちづくりの合意形成 ・景観調査の実施、景観条例の検討	H17～ H18以降	羅臼町	
		(2)バリアフリーのまちづくり ・整備必要箇所の点検、整備内容の 検討	継続実施	羅臼町	
		(3)防災対策の推進 ・整備必要箇所の点検、整備内容の 検討	継続実施	羅臼町	

4. フォローアップ計画

フォローアップ
<p>計画全体については、「羅臼地域マリンビジョン協議会」を定期的開催し、経済情勢、町財政状況等を勘案して進捗状況の評価する。また、町人口・就業者数の動向、各産業の生産動向、観光入込客の動向等を指標に、達成状況の評価と必要に応じた計画の見直しを行う。</p> <p>水産業振興構想については、漁業生産量・金額、漁業経営体数、漁業就業者数、種苗生産量・放流数、陸上蓄養量・出荷金額等を追跡調査し、進捗状況の評価と必要な対応を行う。</p>

5. その他参考資料

参考資料
<p>添付のとおり</p> <p>参考資料－1 羅臼地域マリンビジョン計画検討資料</p> <p>参考資料－2 計画策定の経緯（協議会議事録等）</p> <p>参考資料－3 羅臼地域マリンビジョン協議会等名簿</p>

